

●浜の話題

- 6月5日、三和漁協上宮田地区の漁業者がハマグリ種苗の放流を行いました。殻長30mm前後のハマグリ種苗350kgを、地先の漁場へ撒きました。豊漁につながることを期待されます。



海へと放しました

- 6月5日、横須賀市大楠漁協では、(一財)横須賀西部水産振興事業団の支援を受けてハマグリ種苗(平均32mm、9g)150kgを放流しました。



種苗放流の様子

- 6月6日、鎌倉漁協鎌倉ハマグリ部会員の特別採捕鋤簾調査で、調査を始めた令和元年以降、最高の漁がありました。2時間で最高で22.2kg/人、他の部会員も10-15kg/人の漁があり、新たな漁獲対象として実感できる漁模様となりました。



鎌倉ハマグリ部会所属若手漁業者の新たな漁業収益となっております



- 6月8日、みうら漁協金田地区の漁業者が金田漁港区域で令和4年11月から実施していたカキ籠養殖試験で育てたマガキの状態を確認しました。カキの殻には付着生物が多く付いていましたが、貝そのものは、試験開始時に比べて、小さなものでも重さが2倍、大きなものでは4倍以上に大きく成長していました。



大きく育ったカキ

- 6月13日、漁業士会は今年2回目の役員会を開催しました。当日は、漁業士研修会（10月10日）と漁業者交流大会（1月上旬）の講演テーマについて協議し、「カジメ・アカモク種苗の大量生産と藻場再生の取組み」「黒潮A型が水温と漁況（魚種組成）に及ぼした影響」「三浦半島沿岸における藻場分布状況」「トラフグ資源の動向と底縄漁法」（仮題）をテーマとして、水産技術センターに講演要望することになりました。



役員会当日の様子

- 6月15日、藤沢市漁協は、水産技術センターで標識を施したハマグリ（ハマグリ）の種苗767個を放流しました。今後、標識の付いたハマグリが漁獲されることで、成長や移動の様子が調べられます。



標識を付けたハマグリ種苗

- 6月15日、小田原市漁協遊漁船部会は小田原沖の3地点に簡易浮魚礁を設置しました。この魚礁は回遊性魚類の蜻集を回り、新しい漁場を造成することを目的に毎年設置しているものです。カツオやキハダの蜻集に期待したいところです。



浮魚礁を作製する様子



設置された浮魚礁

○ 6月16日、藤沢市漁協の葉山組合長は、漁業の発展に尽力したとして、神奈川県県民功労者表彰を受賞しました。おめでとうございます。

知事室 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ie2/syoushi/r5kenminnkou.html>

○ 6月19、26日、7月3日、小坪漁協所属漁業者や地元加工業者、料理店等で構成される合同会社「こつぽ」は、4月中旬から当センター利用加工担当研究員の指導の下育成したキャベツウニを出荷しました。今年は2千個育成して、地元量販店「スズキヤ」に合計600個、飲食店に約100個のキャベツウニを出荷しました。昨年と比べて身入りが良く、色合いも黄色く高評価で良かったそうです。



キャベツウニの身の摘出作業の様子

前年と比べ身入りと色合いが良かったキャベツウニ



地元量販店での販売風景

○ 6月20日、21日、22日、三和漁協城ヶ島地区の漁業者が、藻類を食害するアイゴの捕獲を行いました。海水温の一時的な低下によるものか、捕獲尾数は少なめでした。大型のブダイもいて食害が懸念されることから、漁業者たちは引き続き作業を実施するとのことでした。



捕獲されたアイゴ(左)とブダイ(右)

○ 6月下旬から、大磯のしらす漁業者が、貝桁漁業でナガラミ（ダンバイキサゴ）を漁獲しています。漁は資源保護に配慮し、1日に50kgまでに自主規制しています。

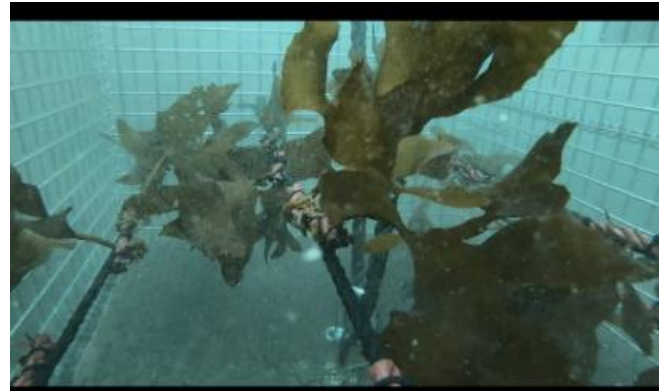


ナガラミ(ダンベイキサゴ)

- 6月21日、小田原藻場再生活動組織はコンクリートブロック付きのカジメ母藻礁2基を江之浦沖に設置しました。昨年から続く本取組により母藻礁の数も増えたことで、藻場再生への期待が高まります。当日はテレビ局や新聞社が取材に訪れ、組織の活動が広く報道されました。



母藻礁設置作業の様子



設置された母藻礁内のカジメ

- 6月23日、腰越漁協漁業研究会に所属する小型定置網漁業者伸海丸さんは、金田湾地区の小型定置網を視察しました。当日は、みうら漁協金田湾地区の指導漁業士(かねよ丸さん)と副組合長(山武丸さん)に、金田湾の小型定置網の方式や資材等と併せて今後の定置網操業に係るご指導・ご助言を頂き、大変有意義な視察となりました。30日には、かねよ丸さんに乗船させて頂き、実際の定置網操業も視察しました。



金田湾地区の指導漁業士(かねよ丸さん)とみうら漁協副組合長(山武丸さん)



- 6月23日、平塚市漁協は、平塚漁港で「地どれ魚直売会」を開催しました。今回は、一本釣りによる漁獲されたマアジやシイラの販売があり、盛況でした。また、市内の複数の小学校が校外学習で訪れており、巨大なシイラに歓声を上げていました。この直売会は、4月から12月の毎月第4金曜日に開催していますのでぜひお越しください。次回は7月28日に開催します。(樋田)

平塚市漁協ウェブサイト

<https://www.jf-hiratsuka.org/jidoresakana>



一本釣りで漁獲されたマアジ



シイラをお買い上げのお客様



小学校の校外学習

- 6月24日、平塚市漁協は、富山県で開催された第7回食育活動表彰賞授賞式において、「小学校での『ふれあい給食』による低未利用魚の普及活動」により、「消費・安全局長賞」を受賞しました。

平塚市漁協ウェブサイト <https://www.if-hiratsuka.org/happenings/2023/0627090000>



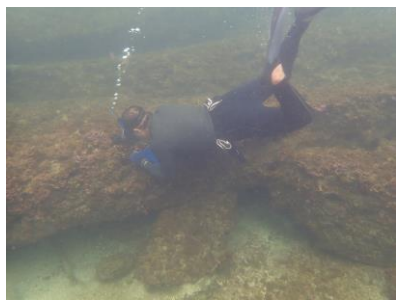
受賞イメージ(平塚市漁協提供)

- 6月27日、長井町漁協福会所属漁業者が、当センターに視察に訪れました。同漁業者が提供した成熟天然トラフグ親魚を用いて、種苗生産養殖技術担当研究員が人工採卵と孵化に成功した、県内初の人工採卵種苗が元気に泳ぐ様子を視察した後、資源増殖担当研究員より「県内のトラフグ漁獲動向や標識放流試験」について講演がありました。意見交換では「トラフグの回遊動向が気になる」との声があり、長井地区でも資源保護のためリリースしている700g以下のトラフグに標識を付けて調査することになりました。



天然トラフグ親魚を用いた人工採卵種苗視察 水槽内を元気に泳ぐ種苗 トラフグについての講演の様子

- 6月27日、鎌倉漁協漁業研究会所属若手漁業者は、アワビ種苗（漁協 30 mm 500 個、(公財)相模湾水産振興事業団 25 mm 6千個）を地先の適地に放流しました。生残率を高めるため、漁業者が、素潜りで小型海藻が見られる好適な場所を見極め放流し、貝類担当研究員と担当普及員が同行しました。当日は、坂ノ下と材木座地先を潜りましたが、前年同様ムラサキウニが多くて海藻の繁茂が少なく、材木座地区の方が比較的海藻が多く見られました。



素潜りで小型海藻周辺に放流したアワビ種苗



天然の親貝も確認できました

- 6月28日、横須賀市東部漁協走水大津支所の漁業者が令和4年11月から実施しているシングルシードのカキの養殖試験の成長測定を行いました。試験開始時に比べて、殻長で1.8倍、重量で3.8倍にもなっており、大きいものでは、重量で157gにもなっていました。



成長したカキ

- 6月29日、横浜市漁協 金沢支所において、地元の金沢小学校（5年生70名）と関東学院六浦小学校（5年生44名）によるヒラメの放流体験（70mmサイズ 5千尾）が、八景島の地先で行われました。参加した小学生たちは、漁業者から放流開始の指示が出されると、バケツに入った稚魚を、歓声を上げながら、丁寧に放流していました。



小学生によるヒラメ放流の様子

- 6月30日、岩漁協海士会は岩沖で養殖試験をしているカジメの生育状況の確認と追加設置作業を行いました。2月に種挿しをしたカジメ網の一部にはムラサキガイが付着し、弱っているものも見られました。今後は最適な設置水深や設置場所を検討しながら、藻場再生を図っていくようです。



カジメを入れたカキ養殖カゴ



ムラサキイガイが付着したカジメ網

○ 7月3日、江の島片瀬漁協は、藤沢市の補助及び組合が定めた資源管理の取組に基づき、約1万2千尾のヒラメ種苗を地先漁場に放流しました。



ヒラメ種苗の放流



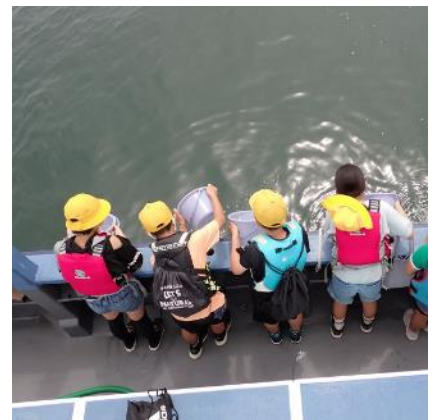
○ 7月5日、平塚市漁協は、同漁協の定置網資源管理、平塚市漁業振興対策協議会、(公財)神奈川県栽培漁業協会及び(公財)相模湾水産振興事業団との5者合同で、約2万1千尾のヒラメ種苗を地先漁場に放流しました。併せて、地元の小学校の校外学習で乗船体験と種苗放流体験を実施しました。



漁業者による放流



組合長による放流の説明



小学生の乗船体験と放流

●お知らせ

○ 「わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業(令和5年度版)」が発行され、トップページに長井町漁協福会が令和3年11月にかながわブランド登録した「天然・釣物 相模のとらふぐ」が掲載されました。相模のとらふぐの魅力や、福会会長 長助丸さんの延縄漁の様子が、当センターのトラフグ種苗生産の取組みと併せて掲載されました。ぜひ、ご覧ください。

わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業(令和5年度版)掲載ページ

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/a2d/cnt/f6572/watakura2023.html>

令和5年度版
わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業

かながわ農林水

かながわ新名産「天然・釣物 相模のたらふく」

「天然・釣物 相模のたらふく」

かながわ新名産

トラフグというと下関をはじめとした西日本で水揚げされる高級魚というイメージが強いですが、神奈川県産の海でも高品質の天然トラフグが水揚げされており、令和3年度にかながわブランドに登録されました。

1. 貴重な天然・釣物

日本で消費されるトラフグの大半が、輸入物や産廃物でまわられている。相模のたらふくは、はえ縄といわれる漁法で1尾ずつ丁寧に釣り上げられる、貴重な天然・釣物であり、その旬は11〜2月です。

2. 漁業者と漁が 二人三脚で立ち上げたブランド

三浦半島西部に位置する長井漁港は相模川流域のトラフグ漁獲の産地です。

県内では、長井漁港を拠点とする漁業者が、平成7年度に初めてトラフグのはえ縄漁を始めましたが、当時漁獲量が少なくはなかった。そこで、平成20年度から神奈川県水産技術センターでは県の研究所の協力で、トラフグ獲魚の良質な魚を採集する技術など、養魚を大量に生産し、普及するための技術を開発し、養魚の試験施設でもその分を、食肉に関する調査等を行うのは、漁業者との二人三脚で、資源の増殖と管理を進めました。

その結果、近年では年間3トン以上の安定した漁獲量となり、令和3年度は長井地区で8.6トン、県全体で10トンと、これまで最高の漁獲量となりました。

同年11月には、「天然・釣物 相模のたらふく」がかながわブランドに登録され、実際の業者名となっています。県ではトラフグ資源の安定にだけけ、引き続きトラフグの養魚を安定的に供給することで、今後も漁業者を支援していきます。

3. 相模湾は餌が豊富な好漁場

相模湾の沿岸域は、外海に大きな開口し、急流で海底の起伏に富んだトラフグの生息に適した水深約100mの漁場は、餌となるイシエビ類や小型のエビ類も豊富で好漁場となっています。これらの餌を食べている「相模のたらふく」は、丸々と肉付きの良い漁品ですので、ぜひご覧ください。

4. 首都圏にストレスなく直行

全国のトラフグ産地の中で、首都圏の市場に最も近いのが、長井漁港です。鋭い歯を持つトラフグは市場上で傷みやすいため、釣り上げてすぐに食用用のペンチで魚の鋭い部分を切り、1尾ずつ真空パックして生きたまま出荷（ワッパム出荷）します。長井漁港は、消費地である首都圏に立地しているため、魚にとっては輸送のストレスが少なく、活きの良い状態で市場に届けられます。

「天然・釣物 相模のたらふく」情報はこちら
<http://jf-nagaimachi.info/>

かながわ農林水

わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業

かながわ農林水

かながわ新名産「天然・釣物 相模のたらふく」

○ 茅ヶ崎市漁協のイベント「ちがさきSeaSide マルシェ」のお知らせ
 日時：8月5日（土曜日）10:00～ 販売開始 場所：茅ヶ崎漁港駐車場（多目的広場）
 先月、先々月の「浜の話題」でお知らせしておりました第1回、第2回のイベントは天候に恵まれず中止となっており、改めて第3回のイベントを開催します。漁師のキッチンカーの出店、鮮魚販売等があります。詳しくは、茅ヶ崎市漁協のウェブサイトをご覧ください。
 茅ヶ崎市漁協のウェブサイト <https://jf-chigasaki.wixsite.com/home/イベント>

○ 「第30回小田原みなとまつり」のお知らせ
 日時：8月6日（日曜日） 場所：小田原漁港とその周辺
 イベント内容は詳細が決まり次第、順次小田原市のウェブサイトで公開されるようです。
<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/industry/fisher/event/minatomaturi-220807.html>

● 浜の話題WEB版のご案内 WEB版は関連画像も掲載されているので、ぜひご覧下さい。
 「漁況情報・浜の話題」で検索。或いは右のQRコードを読み込みください。
 水産技術センター 浜の話題 WEB ページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p785468.html>

